

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程用)

教科	技術・家庭(技術分野)	学年	2	年	時間数	70/2	時間
----	-------------	----	---	---	-----	------	----

教科書名	技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて	出版社名	開隆堂
------	--------------------------	------	-----

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	知	思	主	
一学期	4	(B 生物育成の技術)	①生活や社会を支える生物育成の技術		◎	○	<b>授業の概要</b> 「B 生物育成の技術」では、作物や動物、水産生物などの基本的な生物育成の技術について学んだ後、簡単な作物の栽培に取り組みます。「C エネルギー変換の技術」では、まず電気エネルギーの利用方法や保守点検について理解するとともに、機械部品による運動エネルギーの伝達についても学習します。その後、簡単な電気回路について学習し、機械部品や電子部品の組み立てを含む製品の製作を行います。
		1-1 生活や社会と生物育成の技術	②身の回りにおける生物育成の技術		◎	○	
		1-2 さまざまな生物育成の技術	①作物の栽培技術 ②動物の飼育技術 ③水産生物の栽培技術 ④森林の育成技術	◎		○	
		中間考査(5/14~5/15)		◎	◎	○	
	5	2 生物育成の技術による問題解決	①問題解決の流れ ②生物育成計画の立て方(実習)	○	◎	○	
		6		○	◎	○	
	7	3 これからの生物育成の技術	①生物育成の技術の学習をふり返ろう ②生物育成の技術と私たちの未来	◎	◎	○	
7		期末考査3年(6/26~7/2) 期末考査2年(6/27~7/2)		◎	◎	○	
夏季	8	夏季休業日(7/20~8/25)					
	8						
二学期	9	(C エネルギー変換の技術)	①生活や社会を支えるエネルギー変換の技術		◎	○	<b>評価の観点</b> 知識・技能 生物育成の技術やエネルギー変換の技術についての科学的な原理・法則や基礎的な技術の仕組み及び、これらの技術と生活や社会、環境との関わりについて理解しているとともに、安全・適切かつ栽培、検査等ができる技能や、製作に必要な図をかき、安全・適切な製作や実装、点検及び調整等ができる技能を身に付けている。 思考・判断・表現 生活の中から生物育成の技術やエネルギー変換の技術に関わる問題を見い出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして、課題を解決する力を身に付けているとともに、それらの技術の評価し、適切に選択し、管理・運用、改良・応用する力を身に付けている。
		1-1 生活や社会とエネルギー変換の技術	②身の回りにおけるエネルギー変換の技術		◎	○	
		1-2 エネルギー資源の利用	①エネルギーの利用 ②燃料を利用した技術 ③発電と送電のしくみ ④エネルギー変換効率と省エネルギー	◎		○	
		中間考査(10/10~10/11)		◎	◎	○	
	10	1-3 電気の利用	①電気エネルギーの特徴 ②光や熱に変換するしくみ ③動力や音・信号に変換するしくみ ④電気回路と回路図 ⑤電気機器の安全な利用 ⑥電気機器の保守点検	◎		○	
		11	1-4 運動の利用	①力の伝達 ②動きを変化させるしくみ ③力や運動を保存するしくみ ④部品の固定と共通部品 ⑤機械の保守点検	◎	◎	
	12	2 エネルギー変換の技術による問題解決	①問題解決の流れ(実習)	◎	◎	○	
12		期末考査3年(11/27~12/3) 期末考査2年(11/28~12/3)		◎	◎	○	
冬季	1	冬季休業日(12/21~1/7)					
	1						
三学期	2			◎	◎	○	
		学年末考査3年(2/21~2/28) 学年末考査2年(2/25~2/28)		◎	◎	○	
	3	3 これからのエネルギー変換の技術	①エネルギー変換の技術の学習をふり返ろう ②エネルギー変換の技術と私たちの未来	◎	◎	○	
							<b>備考</b>

シ ラ バ ス

令和6年度

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程用)

教科	技術・家庭(技術分野)	学年	3	年	時間数	35/2	時間
----	-------------	----	---	---	-----	------	----

教科書名	技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて	出版社名	開隆堂
------	--------------------------	------	-----

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	知	思	主	
一学期	4	(D 情報の技術)	①生活や社会を支える情報の技術		◎	○	授業の概要 「D 情報の技術」では、生活や社会を支える情報の技術について学習します。具体的には、ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツ(例えばチャットのような機能)のプログラミングや、センサーで計測した情報をもとにアクチュエータを制御するプログラミングを行います。また、情報モラルの必要性や情報セキュリティについての基礎知識も学習します。
		1-1 生活や社会と情報の技術	②身の回りにおける情報の技術		◎	○	
		1-2 情報とコンピュータ	①コンピュータの構成 ②コンピュータの機能と装置 ③コンピュータを使って機器を自動で動かすしくみ	◎		○	
	5	中間考査(5/14~5/15)		◎	◎	○	
			④コンピュータによる処理のしくみ ⑤プログラムの構造と表現 ⑥情報のデジタル化 ⑦デジタル情報の特徴	◎		○	
	6	1-3 情報の表現と伝達	①使いやすさを工夫した情報の表現 ②メディアを利用した情報の表現	◎		○	
		期末考査3年(6/26~7/2) 期末考査2年(6/27~7/2)		◎	◎	○	
夏季	8	夏季休業日(7/20~8/25)					
	9	1-4 情報セキュリティと情報モラル	①情報セキュリティ ②情報モラル ③知的財産の保護と活用	◎		○	・情報の技術の見方・考え方を働かせ、利便性や安全性を高める双方向性のあるコンテンツや身近な不便さを解消する計測・制御システムのプログラムを設計・制作する実践的・体験的な活動を通して、生活や社会で利用されている情報の技術についての基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けることができる。 ・情報の技術と生活や社会・環境との関わりについて理解を深めるとともに、生活や社会の中から情報の技術に関する問題を見つけて課題を設定し解決する力を身に付けることができる。 ・よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に情報の技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付けることができる。
中間考査(10/10~10/11)			◎	◎	○		
2-1 双方向性のあるコンテンツによる問題解決		①問題解決の流れ(実習)	◎	◎	○		
二学期	10			◎		○	生活や社会で利用されている情報の技術についての科学的な原理・法則や基礎的な技術の仕組み及び、情報モラルの必要性及び、情報の技術と安全な生活や社会・環境との関わりについて理解しているとともに、安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができる技能を身に付けている。
				◎		○	
	11			◎	◎	○	情報通信ネットワークを利用したアプリや計測・制御の技術によって解決できる問題を見つけて、必要な機能を持つコンテンツや計測・制御システムに関する課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして、課題を解決する力を身に付けているとともに、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築を目指して情報の技術を評価し、適切に選択・管理・運用、改良、応用する力を身に付けている。
12	期末考査3年(11/27~12/3) 期末考査2年(11/28~12/3)			◎	◎	○	主体的に学習に取り組む態度 よりよい生活の実現や持続可能な社会の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、情報の技術を工夫し創造しようとしている。
	冬季休業日(12/21~1/7)						
三学期	1	2-2 計測・制御による問題解決	①問題解決の流れ(実習)	◎	◎	○	学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「製作品」、「提出物(ノートやプリント)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。
		学年末考査3年(2/21~2/28) 学年末考査2年(2/25~2/28)		◎	◎	○	
	2			◎	◎	○	備考
3	3	3 これからの情報の技術	①情報の技術の学習をふり返ろう ②情報の技術と私たちの未来	◎		○	
				◎		○	



令和6年度  
シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程用)

教科	技術・家庭(家庭分野)	学年	3	年	時間数	35/2	時間
----	-------------	----	---	---	-----	------	----

教科書名	技術・家庭 家庭分野 生活の土台 自立と共生	出版社名	開隆堂
------	------------------------	------	-----

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	知	思	主	
一 学 期	4	C 消費生活・環境 4 持続可能な社会	ガイダンス		○		授業の概要  ガイダンスで、3年生で学ぶ内容について説明します。 購入の意思決定の方法や、契約の概念、販売方法・支払方法の特徴と契約解除の方法等の学習を振り返り、環境に配慮した消費生活行動について具体的に学びます。 幼児の発達と生活の特徴に関する学習を通して、家族の役割や幼児にとっての遊びの意義、幼児との関わり方について考えていきます。  学習の到達目標 ・自分や家族の消費生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けて環境に配慮した消費生活を考え、計画を立てて実践することができる。 ・幼児とのよりより関わり方について考え、工夫することができる。
			1 消費行動が社会に与える影響		◎		
	5	中間考査(5/14～5/15)	2 消費行動が環境に与える影響		○	○	
			3 世界の国々と連携した持続可能な生活の創造へ		○	○	
	6	A 家族・家庭生活 2 幼児の生活と家族	1 幼児のころと今の自分		◎	○	
			2 幼児の体の発達	◎	○		
	7	期末考査3年(6/26～7/2) 期末考査2年(6/27～7/2) 生活の課題と実践	生活の課題と実践・課題設定と計画	◎	○		
				◎	○		
夏 季	8	夏季休業日(7/20～8/25)					
二 学 期	9	生活の課題と実践	生活の課題と実践・報告会		◎	○	
			3 幼児の心の発達	◎	○		
	10	中間考査(10/10～10/11)	4 発達にとってのおとなの役割		◎	○	
			5 遊びが必要なわけ 6 遊びを支える環境	◎	○		
	11	3 幼児とのかかわり	1 ふれあい体験の前に	◎	◎		
			2 ドキドキワクワクふれあい体験	◎	◎		
12	期末考査3年(11/27～12/3) 期末考査2年(11/28～12/3)	3 ふれあい体験は幼児からの贈り物 4 子どもの成長と地域	◎	○	◎		
				◎	○		
冬 季		冬季休業日(12/21～1/7)					
三 学 期	1	4 家庭生活と地域のかかわり	1 家庭生活と地域での活動 2 多様な人びとが暮らす地域		○	◎	
			3 地域に暮らす高齢者	◎	○		
	2	学年末考査3年(2/21～2/28) 学年末考査2年(2/25～2/28)	4 高齢者とのかかわり	◎	○		
				◎	○		
3	5 持続可能な家庭生活 まとめ	持続可能な家庭生活をめざして		◎	○		
		3年間を振り返る		◎	○		
							評価の方法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「作品」、「提出物(ノートやプリント)」により評価します。各学期の成績は、上記の観点から評価し、5段階法でも評定します。学年末の成績は、各学期の総合評価とします。
							備考

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	家庭	科目	家庭基礎	学年	4 年	類型	共通	単位数	2	単位
----	----	----	------	----	-----	----	----	-----	---	----

教科書名	家庭基礎 自立・共生・創造	出版社名	東京書籍
------	---------------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等		
		単元	内容	知	思	主			
一 学 期	4	第1章 生涯を見通す	オリエンテーション			○	授業の概要 家庭基礎では、生活面での知識や技術を身に付けて「自立し、異なる世代の人々と「共生」する意識を持ち、自分らしい「生活」を創造していく力を養います。 また「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」を通して、家庭や地域の生活課題を主体的に解決できる力を養います。		
		1 人生を展望する	1 人は生涯を通して発達する	2 青年期の課題		◎			
		2 目標を持って生きる	1 人生は意思決定の連続	2 未来予想図を描く		○ ◎			
		第2章 人生をつくる	1 「人生100年」時代を生きる			○			
	5	1 人生をつくる	2 自分のライフスタイルを選ぶ			◎			
		中間考査(5/14～5/17)				○			
	6	2 家族・家庭を見つめる	1 家族・家庭をどう捉えるか	2 家族と法律				◎	
		第3章 子どもと共に育つ	1 次世代の育成	2 青年期の責任		○			
		1 命を育む	3 命の誕生	4 母体の健康管理		◎			
		2 子どもの育つ力を知る	1 身体の発達	2 心の発達		○			
	7	第4章 超高齢社会を共に生きる	1 高齢者の自立を支える			○		学習の到達目標 ・人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に身に付ける。 ・学習した知識や技術を活かし、家庭や地域の生活課題を主体的に解決することができる。 ・家族や社会との共生を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身に付ける。 ・ホームプロジェクトの実践により、知識や技術を自分の生活に活かし、さらに意思決定能力や問題解決能力を身に付ける。 ・学校家庭クラブ活動の実践を通して、家庭と社会との関わりについて理解し、共に生きる社会の一員としての自覚を持つことができる。	
		期末考査(6/26～7/2)				◎			
3 これからの超高齢社会 ホームプロジェクトの計画		2 高齢者と共に地域をつくる ホームプロジェクト計画			◎ ○				
夏 季	8	夏季休業日(7/20～8/25)							
		ホームプロジェクト発表				◎ ○			
二 学 期	9	第6章 食生活をつくる	1 青年期の食生活の課題	2 「食べる」とは		○	評価の観点 知識・技能 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家庭生活の意義や役割を理解し、家族・家庭や社会との関わりについて理解を深め、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技能を身に付けている。		
		1 食生活の課題について考える	3 食生活の課題	4 食生活の変化		◎ ○			
		2 食事と栄養・食品	1 栄養と栄養素	2 炭水化物	3 脂質	4 たんぱく質		○	
		5 無機質	6 ビタミン			○			
	10	中間考査5年(10/1～10/4)	1 食品の選択	2 食品の保存と加工				◎	
		中間考査4・6年(10/8～10/11)						○	
	11	5 調理の基礎	調理実習計画と準備(和食)					○	思考・判断・表現 生涯を見通して、家庭や地域の生活について課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現する能力を身に付けている。
		調理実習1						◎	
		調理実習計画と準備(洋食)						○	
		調理実習2						◎	
12	調理実習計画と準備(中国料理)					○			
	調理実習3					◎			
冬 季	12	期末考査(11/27～12/3)				◎ ○	主体的に学習に取り組む態度 家庭や地域の生活について関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。		
		第7章 衣生活をつくる	1 高校生と衣生活	2 着るとは		○			
三 学 期	1	1 被服の役割を考える	3 被服の保健衛生的機能	4 被服の社会的機能		◎	評価方法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに、「授業(実習)態度・取り組み方」、「定期考査」、「提出物(レポートやノート、作品)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。		
		冬季休業日(12/21～1/7)							
	2	第8章 住生活をつくる	1 住居の機能と変化	2 平面図を理解する				○	
		1 住生活の変遷と住居の機能	3 住居の計画	4 誰もが住みやすい住居とまち				◎	
	3	2 安全で快適な住生活を目指して	1 住居の防災	2 健康な住生活				◎	
		第9章 経済生活を営む	1 情報収集・比較と意思決定					○	
	2	2 購入・支払いのルールと方法	1 購入と契約					◎	
		4 生涯の経済生活を見直す	2 家計をマネジメントする	3 家計資産をマネジメントする				○	
	3	学年末考査4・5年(2/21～2/28)						◎ ○	備考
		第11章 これからの生活を想像する	1 生活設計をする					○	
		1 生活をデザインする	2 これからの社会を創造する			◎			
		人生すごろく				○			

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	家庭	科目	保育基礎	学年	6 年	類型	文科系	単位数	2	単位
----	----	----	------	----	-----	----	-----	-----	---	----

教科書名	保育基礎	出版社名	実教出版
------	------	------	------

学期	月	指導計画			評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容		知	思	主	
一 学 期	4	1章 子どもの保育	1 保育の意義	I 保育とは	○	◎	<p>授業の概要</p> <p>保育基礎では、「子どもの保育」、「子どもの発達」、「子どもの生活」、「子どもの文化」、「子どもの福祉」について学習します。教科書や資料プリントを用いて、乳幼児期が人間発達の基礎を培う時期であることを踏まえ、誕生から就学までの長期的視野をもち、実際に子どもと触れ合う学習活動を通して、子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得し、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と実践的な態度を身に付けます。また、保育技術検定を受検し、子どもと触れ合う技術を高めます。</p> <p>学習の到達目標</p> <p>・子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を身に付けることができる。 ・子どもの発達や子育てに関心を持ち、関わろうとする意欲や実際に関わることができる能力と実践的な態度を身に付けることができる。 ・乳幼児の生活の特徴と適切な養護の在り方、生活習慣の形成、生活環境の整備、健康管理と事故防止などについて学び、乳幼児の発育発達を促すための望ましい生活について理解することができる。 ・子どもの発達を促すための保育の必要性和意義を理解し、保育の目標に応じた基本的な保育技術を身に付けることができる。 ・児童福祉の理念や関係法規と制度について学び、近年の子育て支援の考え方や施策について理解することができる。</p>	
			2 保育の方法	I 保育者の役割 II 一人ひとりに合わせた指導	○	◎		
	5	2章 子どもの発達	3 保育の環境	I 家庭での保育	◎	○		
			1 子どもの発達の特性	II 幼児教育・保育の場 I 発達と保育 II 発達の共通性と個性	◎	◎		
	6	3 子どものからだの発達	2 子どものからだの発達	II 身体的特徴 III 生理的特徴	◎	○		
			3 子どもの心の発達	I 社会・情緒的な発達 II 知的発達 III 言葉の発達	◎	◎		
	7	3章 子どもの生活	1 子どもの生活と養護	I 生活と養護 II 栄養と食事 III 衣生活	◎	○		
2 生活習慣の形成			I 子どもの生活習慣 II 基本的な生活習慣 III 社会的な生活習慣	○	◎			
二 学 期	8	4章 子どもの文化	3 健康管理と事故防止	I 子どもの健康管理 II 事故防止と応急措置	○	○		
			1 子どもの文化の意義と支える場	I 子どもの文化 II 子どもの文化を支える場	○	◎		
	9	5章 子どもの福祉	2 子どもの遊びと表現活動	I 遊びと発達 II 遊びと表現活動 絵本の選び方	◎	○		
			1 子どもの親	3 子育て支援	◎	○		
	10	6章 子どもの発達	1 子どもの親		○	○		
			2 子どもの福祉		○	○		
	11	7章 子どもの生活	1 子どもの生活と養護		○	○		
2 生活習慣の形成				○	○			
12	8章 子どもの発達	1 子どもの文化の意義と支える場		○	○			
		2 子どもの遊びと表現活動		○	○			
冬 季	1	9章 子どもの福祉	1 子どもの親		○	○		
			2 子どもの福祉		○	○		
三 学 期	1	10章 子どもの発達	3 子育て支援		○	○		
			1 子どもの親		○	○		
			2 子どもの福祉		○	○		
2	2	11章 子どもの生活	1 子どもの生活と養護		○	○		
			2 生活習慣の形成		○	○		
3	3	12章 子どもの発達	1 子どもの文化の意義と支える場		○	○		
			2 子どもの遊びと表現活動		○	○		
					<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>子どもについて関心をもち、意欲的に学習に取り組む、子どもの発達や子育て支援に主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。</p>			
					<p>評価の方法</p> <p>学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに、「授業(実習)態度・取り組み方」、「提出物(レポートやノート、作品)」、「出席」、により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。</p>			
					備考			



シ ラ バ ス

令和6年度

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	家庭	科目	ファッション造形基礎	学年	6年	類型	文科系	単位数	2	単位
----	----	----	------------	----	----	----	-----	-----	---	----

教科書名	ファッション造形基礎	出版社名	実教出版
------	------------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単元	内容	知	思	主		
一 学 期	4	1章 衣服の構成	1. 人のからだと衣服 2. 衣服制作のための人体計測 3. 体格の特徴 4. 既製服サイズ表示 5. 動作による人体寸法・形態の変化			○	授業の概要 ファッション造形基礎では、被服の構成を理解し、被服材料の種類や特徴など被服製作に関する知識と技術の習得を目指します。	
		1節 人体と衣服				◎		
		2節 立体構成衣服と平面構成衣服		1. 立体構成衣服 2. 平面構成衣服	○	◎		
		3章 洋服の製作			◎			○
	5	中間考査(5/14～5/17)		○				
		1節 製作の基礎	1. 洋服とは 2. 製作のための用具 実習①基礎縫いを利用した巾着袋の製作	◎		○		
	6		実習②巾着袋の装飾	◎		○		
期末考査(6/26～7/2)			○			学習の到達目標		
7		3. 採寸 4. パターン(型紙)の種類と利用 5. 布地の性質と扱い方 6. 縫製の基礎	○			・被服の構成、被服材料の種類や特徴など被服製作に関する知識と技術を習得する。 ・ファッション造形の基礎的な能力と態度を身に付ける。		
			○		○			
夏 季	8	夏季休業日(7/20～8/25)						
二 学 期	9	3節 着装	1. 洋服の着装 2. 着装の工夫・コーディネート 実習③洋服の製作(ブラウス・シャツの製作)	○		◎	評価の観点 知識・技能 衣服の構成・材料、製作の理論・技術について理解し、衣服を創造的に製作するために必要な知識を身に付けている。 製作題材を踏まえた技法を用い、計画に従って能率的に衣服の製作を行うことができる技能を身に付けている。	
		2節 製作例		◎	○	○		
	中間考査5年(10/1～10/4)		◎		○			
	中間考査4・6年(10/8～10/11)		◎		○			
	10	4章 和服の製作	1. 和服とは 2. 和服の素材 3. 製作のための用具と基本的な技法 2. 簡単な和服の製作	○		○		思考・判断・表現
		1節 製作の基礎		◎		○		衣服のデザインや材料の選択に関し、個人の創意・工夫を表現することができる。また、製作過程や作品の着用において、必要に応じて個人の創意・工夫を生かし表現することができる。
	11	2節 製作例		◎		○		
期末考査(11/27～12/3)			○			主体的に学習に取り組む態度		
12	3節 着装	1. 和服の着装 2. 和服の種類と用途	○		○	衣服の構成・材料・製作について関心をもち、衣生活の充実・向上をめざして意欲的に取り組むとともに、衣服を創造的に製作する態度を身に付けている。		
	冬季休業日(12/21～1/7)							
三 学 期	1	2章 衣服の素材	1. 繊維 2. 糸 3. 布 4. 衣服素材の加工 5. これからの衣服素材 1. 衣服素材の性能 2. 衣服素材の選択 家庭学習	○		○	評価方法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業(実習)態度・取り組み方」、「提出物(レポートやノート)」、「作品」により評価します。また学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。	
		1節 衣服素材の種類		○		○		
	2節 衣服素材の性能と選択	○		○				
2			○		○	備考		
			○		○			
3			○		○			

シ ラ バ ス

令和6年度

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	家庭	科目	フードデザイン	学年	6 年	類型	文科系	単位数	2 単位
----	----	----	---------	----	-----	----	-----	-----	------

教科書名	フードデザイン	出版社名	実教出版
------	---------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単元	内容	知	思	主		
一 学 期	4	第1章 食生活と健康	1節 食の意義と役割 2節 食をとりまく現状	○	◎	○	<b>授業の概要</b> フードデザインでは、「健康と食生活」、「フードデザインの構成要素」、「フードデザイン実習」、「食育と食育推進活動」について学習します。教科書や資料プリントを用いて、栄養、食品、献立、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得することができるように、授業や実習を進めます。  <b>学習の到達目標</b> ・栄養の摂取状態について学び、食の外部化や食料自給率の低下などの諸問題について正しい知識を身に付け、自分の考えを確立することができる。 ・各栄養素の種類と栄養的な意義、その栄養素を含む食品について学び、各栄養素の代謝経路と役割を理解することができる。 ・年齢や性別、運動量などによって、必要とされる栄養素の違いがあることを学び、ライフステージごとの特徴を理解することができる。 ・テーブルコーディネートの基本を踏まえ、食事のテーマにふさわしい食卓の整え方や環境作りの技術を身に付けることができる。日本料理、西洋料理、および中国料理の基本的な献立作成ができるようになり、各料理にあった盛り付けや、目的にあった食卓を整えることができる。	
		第4章 調理の基本	1節 調理とおいしさ 2節 調理操作 3節 調味操作	○	○	○		
		5	中間考査(5/14～5/17)		○			
		第3章 食品の特徴・表示・安全	1節 食品の特徴と性質 「調理実習」 2節 食品の生産と流通 「調理実習」 3節 食品の選択と表示	◎		○		
	7	6	期末考査(6/26～7/2)		◎			
			「調理実習」	◎				
		4節 食品の衛生と安全 「調理実習」	◎					
8	夏季休業日(7/20～8/25)							
二 学 期	9	第5章 料理様式とテーブルコーディネート	1節 料理様式と献立 「調理実習」 2節 テーブルコーディネート 「調理実習」	◎	○	◎		
		第2章 栄養素のはたらきと食事計画	1節 栄養素のはたらき 「調理実習」	◎				
		中間考査5年(10/1～10/4)		◎	○			
	10	中間考査4・6年(10/8～10/11)		○				
	11	2節 ライフステージと栄養 「調理実習」 3節 食事摂取基準と食事計画 「調理実習」	○	○	○			
		第7章 食育	1節 食育の意義と推進活動 「調理実習」	○	◎	◎		
		期末考査(11/27～12/3)		◎				
12		正月料理 「調理実習」	◎					
	冬季休業日(12/21～1/7)		◎	○				
三 学 期	1	第6章 フードデザイン実習	1節 献立作成 1 日常食の献立を考える際の留意点 2 日常食の献立作成 「調理実習」 3 応用食・行事食 学習のまとめ 家庭学習	◎		○		
				◎	○			
				○	○	○		
2			○	○	○			
3			○	○	○			
							<b>主体的に学習に取り組む態度</b> 健康と食生活についての学習を通して、家庭や地域において食育の推進に役立てようとする能力と態度を身に付けている。	
							<b>評価方法</b> 学習の状況は、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業(実習)態度・取り組み方」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。	
							備 考	